

産業建設委員会 行政視察報告書

視察日程 令和6年5月14日（火）～16日（木）

視 察 先 北海道美瑛町
北海道富良野市

参 加 者 委員長 三宅 繁博 副委員長 眞鍋 幹雄
委 員 三浦 克彦 曾我部 清

【北海道美瑛町】調査事項：観光施策について

人口9,341人 面積676.78平方キロメートル 議員定数14人（令和6年3月末時点）

1 美瑛町観光マスタープランの評価と今後の取組について

○美瑛町観光マスタープランの策定

包括連携協定を締結している北海道大学観光学高等研究センターの協力の下、「丘のまちなびえい」の持続的発展を目指し、地域ブランドを確立させた。農林業・商工業・観光業の融合によって町の活性化を図ることを目的とし、「美瑛町観光マスタープラン」を平成30年3月に策定し、令和3年に中間評価を行っている。

○美瑛町観光マスタープラン

【4つの基本方針】

1. 地域資源の多様性拡大と持続可能性の担保
2. 入込客数の抑制と観光の質の向上
3. くらしと観光の融合
4. 美瑛型DMOの確立

【9つの戦略】

1. 農業景観の保全と活用
2. 観光エリアの再設計
3. デスティネーション・イメージの刷新
4. ターゲットの絞り込み
5. 消費単価と滞在時間の拡大
6. 町民の観光への参画拡大
7. くらしに貢献する観光の実現
8. 地域課題解決に直接関与するDMO
9. 対内的・対外的ワンストップ窓口

○評価の枠組み

4つの基本方針と9つの戦略を基に22項目の具体的事業をまとめている。各事業の関係者とのヒアリングと住民意識調査の結果を踏まえ、令和3年に5段階の評価を実施し、今後、取り組むべき課題を抽出している。

○今後、検討している取組

1. 「びえいルール」の策定

丘陵地帯の農業景観が観光資源となっている美瑛町の観光に関する注意点などを分かりやすくまとめたルールの策定を検討

(例：私有地である農地に立ち入らない 道路の真ん中で写真を撮らない)

2. 施設整備

「白金青い池」のトイレの数が不足していることが周辺道路の混雑の一因となっていることから、トイレの新設を検討

「セブンスターの木」駐車場のバス駐車スペースが不足し、駐車場に入れないバスの路上駐車で交通渋滞が発生していることから、駐車場の改修を検討

3. 観光地混雑状況可視化カメラの増設

現在4か所に設置している混雑状況カメラを、ほかの観光スポットにも設置するための調査を検討している。

また、5か所の観光拠点施設に設置しているデジタルサイネージを3か所増設することを検討

4. 混雑する時期に観光スポットに警備員配置

夏季の農繁期に「セブンスターの木」周辺、冬期に「クリスマスツリーの木」周辺に警備員を配置し交通整理を行うことを検討

5. 観光振興に係る財源の確保

観光振興事業のための、宿泊税を含めた観光振興に係る財源確保について、検討委員会を設置し議論する予定

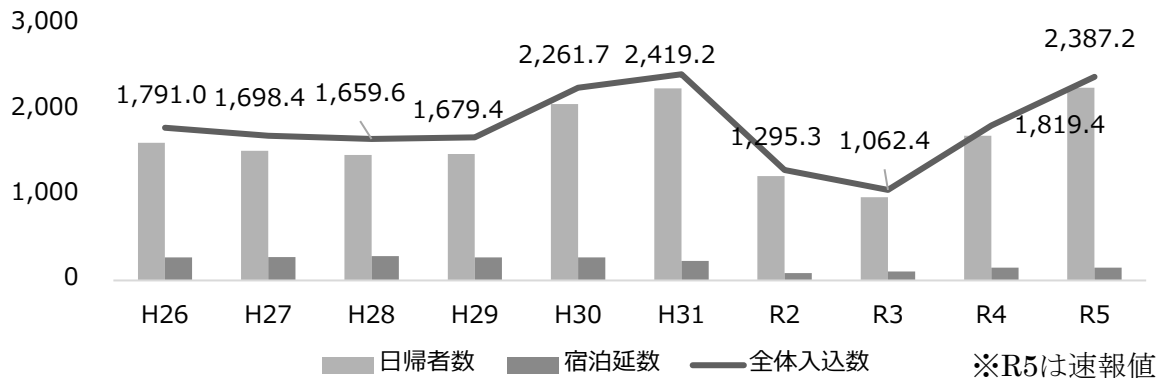
2 体験型観光の取組について

○Be my BIEI

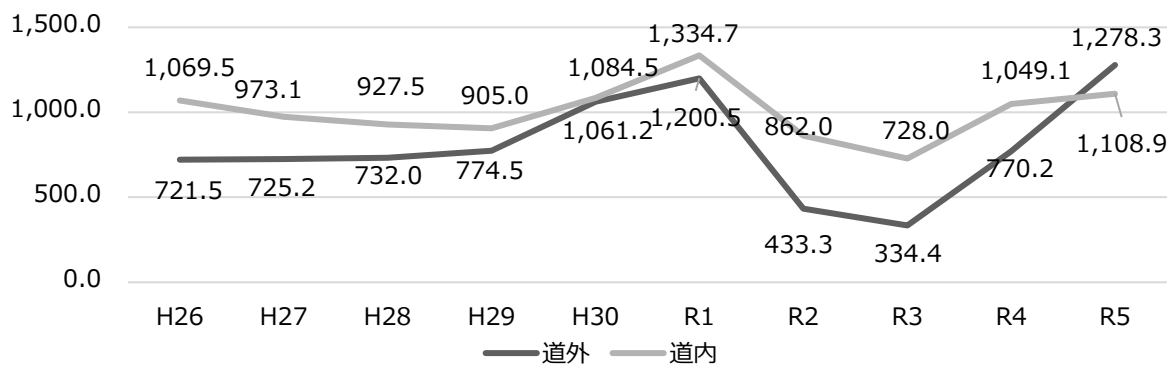
「美瑛になろう」「美瑛を見つけよう」「美瑛をつくろう」という意味を込めたネーミングを兼ねたスローガン「Be my BIEI」の下、観光客にも「私だけの美瑛」を見つけてもらいたいというコンセプトで季節ごとに異なる美瑛町での過ごし方や様々なアクティビティを展開している。

これらの美瑛町でしか体験できない遊びや参加型イベントは、一般社団法人美瑛町観光協会が運営する「美瑛町観光ポータルサイト」から入力フォームで申し込むことができる。

年間観光入込客数（美瑛町観光基本調査 単位：千人）



観光客の道内外内訳（美瑛町観光基本調査 単位：千人）



3 将来の観光振興について

○「美瑛町持続可能な観光目的地実現条例」の制定

豊かな地域資源をより良い形で次世代へと継承するために、町、町民、観光事業者及び観光客が相互に協力し、持続可能な観光目的地づくりに向けた取組を推進する必要があることから、北海道大学、町内観光事業者、農林業事業者、商工業関係団体等で構成する委員会において「美瑛町持続可能な観光目的地実現条例」を取りまとめ、令和5年4月1日から施行した。

（前文）

美瑛町は、雄大な十勝岳連峰の山々を望み、四季折々の彩り豊かな自然景観と良質な温泉、開拓によって切り拓かれた美しい農業景観とおいしい食材等の恵まれた資源を活用し、観光目的地として多くの人々に親しまれてきました。

これら資源は、言うまでもなく美瑛町に住む私たちのかけがえのない財産です。そして、まちを訪れる方々にとっても大切な財産であってほしいと願っています。

この財産を守り、育てていくためには、農業と観光の連携や魅力ある観光目的地としての磨き上げに取り組む必要があります。

私たちは、このような認識の下、町に訪れる方々とともに、町、町民、観光事業者が一体となって相互に協力し、より美しいまちの姿を次世代に引き継ぐためにこの条例を制定します。

「みんなの美瑛町」であり続けるために。

美瑛町行政視察まとめ

「農業の町」として歩みを進めてきた美瑛町は、観光産業も町の発展に大きく貢献してきた。平成2年度に僅か80万人だった美瑛町の観光客数は、令和5年度には238万人に達し、道内でも有数の規模を誇っている。

しかし、町の観光産業が大きく成長する一方で、観光客の増加や旅行行動の変化による幾つかの問題が生じた。特に近年は、農地景観を目的とした観光客の来町が増え、私有地への立入りや違法な路上駐車、交通渋滞等の問題が深刻化しており、観光は恩恵と同時に多くの課題をもたらしている。

これまでの観光の歩みを評価した上で、美瑛町観光の「これから」を考えるために、あえて大きな方向転換を図っている。観光客の「数」から観光体験の「質」の追求へ、観光客任せの巡り方から、地域がデザインした巡り方へ、そして「有名木」を見る観光から「暮らし」を体感する観光へ変わろうとしている。

評価の枠組みを構築し、現状と課題を明確化した上で今後の展開を研究する姿勢が重要であると感じた。本市においても観光資源や地域ブランドの評価を実施しながら新たな取組を模索することが必要であると認識した。

【北海道富良野市】調査事項：官民連携の中心市街地活性化について

人口19,636人 面積600.71平方キロメートル 議員定数16人（令和6年3月末時点）

○富良野市の観光地の特徴

- ・近年は外国人を中心としてラベンダー畑の人气が高く、年間200万人の集客力を持つ。
- ・ラベンダー観光の中核的存在が中富良野町にある「ファーム富田」である。主にラベンダーを中心とした花を呼び物に、春から秋にかけて開園する。国鉄のカレンダーにラベンダー畑の写真が採用されたことや、テレビドラマ「北の国から」の放送などにより知名度が向上し、観光地として有名になった。
- ・夏の観光客は2、3泊、冬の外国人観光客は7、8泊程度が一般的。夏はレンタカー、冬はバスで新千歳空港や旭川空港から来る。観光客の多くは富良野地域からほとんど出歩かず、市内にずっと滞在する（道内を巡る観光での通過点ではない）。
- ・7、8月のハイシーズンは、日本人観光客が多いことから、外国人の宿泊は富良野市内の確保が困難なことが多く、近郊の観光地へと流れている。

- ・宿泊施設の年間稼働率は40%程度。各宿泊施設の空室情報を共有し、当日の案内も行っており、外国人向けには当日の案内が好評である。

1 観光政策の重点方針

○宿泊を前提として、広大な土地に点在している観光素材を回遊させる。

- ・富良野市の夏の観光地化は、美瑛の丘、ラベンダー、「北の国から」、といった好条件が重なることで、昭和60年頃から始まった。ワイン工場は市営、チーズ工場は市設民営。ラベンダーのように地域の資源が結果として観光素材に変化した。

○富良野のイメージをなるべく変えない。

- ・既につくられた良好なイメージを守ることと、観光客を積極的に呼び込むというよりは、来て下さった方々にいかに高い満足度を提供するかを検討している。

2 富良野型情報循環システムについて

○観光情報提供のコンセプト「自分が外に出たときに何を知りたいか」

- ・富良野市の観光資源はソフトであるイメージを重視している。四季の移り変わりや体験メニューの情報等。
- ・観光客のニーズに合わせ、欲しい情報を提供する。観光エリアに来てもらうこと、そして滞在してもらうことにより、結果として滞在期間を延ばすことにつながる。
- ・来訪者相手のビジネスは、個々の事業者の努力であり、宿泊者が増えれば結果としてまち全体が潤う。
- ・市民ボランティアが提供する生活に密着した情報は、富良野市の良いところを発見できる可能性があり、観光客にも魅力的である。
- ・全ての富良野市民が観光案内できることを理想とした「富良野型情報循環システム」を構築。

3 官民連携の中心市街地活性化について

○中心市街地の問題

売上の減少、後継者不足による店舗の減少により、にぎわいが喪失した。商店街の衰退は、空地や未利用地を増大させ、地価の下落につながった。

また、まちなか居住人口の減少により、地域コミュニティが崩壊した。このような負の連鎖により中心市街地の魅力が喪失されてしまった。

○中心市街地活性化計画の基本コンセプト「ルーバン・フラノ構想」

- ・ルーバン・フラノ構想は、医療、介護、子育て、商業の機能とその滞留場所（フラノ・マルシェ）を駅前集積するコンパクトシティ化事業であり、魅力的なまちと地域経済の底上げを目指している。

※『ルーバン』＝「ルーラル（田舎）」と「アーバン（都会）」を組合せた造語

○ルーバン・フラノ構想の2大テーマ

1. 経済のパイの拡大

- ・「まちなかにぎわい空間」の創出で観光客を取り込み、まちなかの活性化を図り、地域経済の底上げに努める

2. 富良野流コンパクトシティ

- ・歩いて暮らせる利便性と機能性に富んだ魅力的な中心市街地づくり

○民間会社をまちづくりの主役にした中心市街地の活性化

- ・地元経営者等を中心とした「まちづくり会社」主導により、まちづくりの構想実現に向け官民連携でエリアマネジメント的かつ戦略的な連鎖まちづくりをハード・ソフトの両面で展開している。
- ・まちづくりをサステナブルなものにするためには、事業推進母体が収益を上げることが必須条件。
- ・公的性格を有するまちづくり会社が、国の補助金や制度資金の受皿となり、事業主体となってまちづくりを推進する。
- ・まちづくり会社は複合施設のオーナーとなり、リーシング収入や売上げマージン収入などで収益を上げながら、中心市街地の活性化事業に再投資する。
- ・事業を官民連携により継続的に行う。
- ・行政は、まちづくり会社を後方支援する。
- ・積極的にリスクテイクするTMOへと進化し、まち全体をマネジメントする公益的ディベロッパーとしてまちづくりをビジネスに変える。

○まちなかにぎわいを促進する具体的事業

【フラノ・マルシェ】

富良野駅北に移転した富良野協会病院跡地を活用し、ブランドイメージの高い富良野市の食材（野菜等）や加工食品（乳製品）の販売、飲食などの店舗やフリーマーケット、マルシェ等のイベント実施のための多目的広場を整備し、国道沿いの玄関口、拠点として機能。

【ギャラリーロード】

市内に在住するプロ・アマ様々な芸術家の作品を各商店街のショーウィンドウに展示し、通りの魅力を向上。

まちを紹介するジャンル別マップ・ロコミマップの作成やQRコードによる情報発信、各種イベントを開催。

【ネーブルタウン】

商店街とその周辺の低未利用地を市街地再開発事業により一体的に開発し、スーパー銭湯、高齢者住宅、クリニック、店舗、事務所、住宅などを整備することにより、商店街の再生を推進。

空地を活用した集合住宅等建設推進のため、商店街、不動産業者、金融機関等で構成する「まちなか居住推進会議」を設置し、情報交換、窓口相談を実施。

【サンライズ・パーク】

百貨店「くにい」跡地を開発し、大型バスも駐車可能な「まちなか駐車場」やポケットパークを整備し、そこを起点としてレンタサイクルを活用した「まちなかパーク&ライド」を推進。

○数値で見る中心市街地活性化事業の効果

- ・地価 6 年連続上昇
(平成25年:29,000千円／立法メートル⇒平成30年:37,000千円／立法メートル)
- ・過去 6 年間の地価上昇額 (9,000円 上昇率31%)
- ・小売店舗数の増加 (平成26年:149戸⇒平成29年:162戸)
- ・まちなか歩行者通行量 (平成26年:2,690人⇒平成29年:3,790人)
- ・観光入込客数 (平成22年:240,137人⇒平成29年:592,129人)

富良野市行政視察まとめ

富良野市は、10 年前と比べて大きく変わった。その一つが観光情報提供のサイト運営を市から観光協会に移管したことである。これにより、インターネット、紙媒体、土産等、様々な事業を幅広く展開しやすくなった。これは市の予算だけでは達成できていない。そして、富良野市の中心市街地活性化の取組は、まちづくり会社を中心とした多様な官民連携事業を連鎖的に継続して実施している点が特徴的である。経済産業省や国土交通省の事例集においても、まちづくりの先進的事例として数多く取り上げられている。

富良野市は、平成 20 年に認定された第 1 期の中心市街地活性化基本計画認定時からまちづくりのビジョンが非常に明確であった。そしてビジョンは、行政、民間問わず関係者でしっかり共有され、それに基づいて各取組を行ってきた。その結果、これまでの取組が市街地全体へと波及させるエリアマネジメントにつながった。

中心市街地活性化基本計画の主軸となる「ルーバン・フラノ構想」に基づいて戦略的に進めた「フラノ・マルシェ」もオープンから 14 年目を迎えた。「フラノ・マルシェ」近傍の路線価は、平成 25 年以降 6 年連続で上昇しており、まさに中心市街地活性化の成果といえる。

現地視察で訪れた「フラノ・マルシェ」では、平日であったにもかかわらず、多くの家族連れやカップルが訪れ、買い物を楽しみ、オープンカフェでくつろいでいた。

官民連携による驚異的な中心市街地の変革には、行政と民間、そして関係者の並々ならぬ努力や研究があつてのことと実感した。従来の概念にとらわれず、積極的かつ柔軟に取り組むまちづくりに感銘を受けた大変有意義な視察であった。